

9. LOH 症候群と思われる症状に 漢方薬が奏功した 1 例

藤沢湘南台病院

○吉田 実、田部井 正、大内 秀紀

【症例】73歳男性。高血圧にて当院循環器科フォロー中、2011年11月、自覚症状がLOH症候群と同じだとの事で併診依頼あり泌尿器科受診。夜間4から5回目がさめてトイレに行く、夜中に目がさめた時に何のために生きているのだろうと思ってしまう、常に疲れている、非常にのどがかわく等の訴えあり。排尿困難なし。DRE:クルミ大、腹部エコーでは前立腺体積29.1cm³。腹診所見では、腹力2/5、左右胸脇苦満・左右臍傍圧痛軽度あり、下腹部に手術痕(大腸癌手術)あり。口渇、夜間尿、倦怠を目標に清心蓮子飲7.5g/dayを30日間投与したが症状改善なし。血中テストステロン259 ng/dl (236-1037)。補中益気湯7.5g/dayに変更し3週間投与も症状改善なし。エナント酸テストステロン250mg筋注を行ったが2週間後症状に変化なく、柴胡加竜骨牡蛎湯7.5g/dayを7週間投与も症状改善なし。再度の腹診所見も前回とほぼ同様だった。下腹部に手術痕があり、腹診では腎虚の有無が不明であったが、症状から腎虚と判断し、また柴胡剤も変更し、牛車腎気丸7.5g/day + 抑肝散7.5g/dayを6週間投与した結果、症状が我慢できる程度になり、その後本人の希望で漢方は中止、1ヵ月後調子がよいとのことで泌尿器科は終了した。その後4ヶ月間症状の再発は見られない。

【考察】本症例では「加齢男性性腺機能低下症候群(LOH症候群)診療の手引き」に沿った診断を行っていなかったため診断根拠には乏しいが、症状から考えてLOH症候群と思われた。腹診では腹力2/5と虚証で倦怠感があり、当初は清心蓮子飲・補中益気湯等の参耆剤を投与したが効果がなく、腎虚の方剤である牛車腎気丸が、また比較の実証向けの方剤である柴胡加竜骨牡蛎湯よりも中等証から虚証向けの抑肝散が有効だった。